一般社団法人
富士の国やまなし通訳案内士会

会員ニュースレター

2021年 9月号

◆ 登山期の富士山五合目を振り返る　　【津島　博】

今年の富士登山は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で７月１日より二年ぶりに解禁となりました。当会からは一日二交替の外国人案内業務と富士山保全協力金収納業務に一日７～８名が勤務し、登山者への案内を実施しました。今年は正会員のほぼ半数、延べ 25 名がこれらの業務に係わっており、本年度においても富士山登山案内は当会の主要な受託業務でした。

9 月 10 日の登山期終了までの期間中、五合目・六合目勤務者と登山者にコロナ感染は無く、安心安全登山を最大の目標にしていた県の関係者だけでなく我々も安堵しているところです。

今年の業務においては 2 年前までとは違う対応を求められました。管理センター前を通過しようとする登山者への検温確認と問診を本部員（県庁職員）、警備員などとともに行うことが主業務となりました。吉田口登山道からの登山者数は統計上一昨年の 18.6 万人から約 6.6 万人に減少したとは言え、ほぼ全員を相手に問診を行う訳ですから、登山者がバス到着後など一斉に押し寄せる時間はてんてこ舞いです。限られた人員で 1 日に千人以上を相手に対応することが多く、忙しい時間帯にはこれまでのように丁寧な登山案内が出来ませんでした。

当初の想定からすると意外だったことは、外国人客が多かったことです。日によっては日本人より多かったのではないかと思えることも一度や二度ではありませんでした。基本的には外国から日本への入国は出来ないはずだったのですが、転勤族である米軍関係者や日本に在住するアジア系の勤務者・学生が緊急事態の続く東京訪問を避け、日本にいるうちに一度はと富士山へ来たのでしょう。こうした在日外国人がチャーターバスでどっと押し寄せた時は、我々は休む間もない大忙しでした。

今年は弾丸登山を極力避ける目的から日帰り登山が推奨されたこともあり、朝 7 時前から登山を開始する人も多かったのも以前には無かったことです。外国人案内人が不在の時間は、協力金

早番勤務者の当会員 1 名がこの間外国人対応に追われました。外国語対応力が求められたことから当会員の存在感は高まりましたが、一人で多くの客を相手にするのは疲れました。

外国人案内人遅番勤務者は、最終バスに乗り遅れた下山者対応が連日のように発生していたのに加え、山小屋に宿泊しないで山頂ご来光を目指す弾丸登山者への指導、忠告も日課のように行いました。軽装備の人、登山靴以外で来る訪問客も多く、注意や助言に時間がかかることも多くありました。

来年度以降外出規制と外国人の入国規制が緩和されれば、今年以上に来場者数とりわけ外国人の数が今年以上に増えると予想されます。関係者と対策の協議を行うとともに、来年度も安心安全な登山に向けた指導と案内を行えるよう勤務経験者の皆さんとともに考えて行きたいと思っています。

◆ 国際山岳看護師小林美智子さんインタビュー　【深澤　富久子】

皆さんは山岳看護師という職業をご存知ですか？ 山岳看護師とは「山岳で医療活動をする看護師」のことです。その中でも国際山岳看護師とは日本登山医学会が認定する国際的な制度で、日本国内で認定を受けている国際山岳看護師は僅か 13 名しかいません。私たちが富士山五合目で一緒に仕事をさせていただいている小林美智子さんはその中の一人です。取得にあたっては、山岳医療の知識だけでなく、登山や救助の技術・知識も必要となります。雪山やクライミングなども含めた総合的な登山技術、救助にあたってはロープワークなども求められます。小林さんは、この国際山岳看護師の初めてのプロとして活動されています。

Q: 山岳看護師を目指したきっかけは？

A: もとはバイクに乗っていて、国際ラリーに参戦したり、トライアル競技もしていたのですが、家庭の事情でできなくなり、その後山岳会に入ったので、登山歴は９年と短いです。しかし、山岳会に入会して８０日の休暇のほとんどは山に入り、クライミングや沢登り、雪山やアイスクライミングなどの多くの登山のジャンルに挑戦してきましたので、登山歴は少ないですがかなり濃い登山経験をしています。さらにキリマンジャロやマッターホルン登頂にも成功し、エベレスト登山を目指していました。そんな中、尊敬し目標にしていた日本を代表する女性登山家が北海道の山で事故死してしまい、山とのかかわり方を改めて考えました。そして出した結論が山岳看護師として社会のニーズに応えていくことだと思いました。そして、２０１８年に国際山岳看護師の認定を取得しました。もともと災害支援に携わる看護師として活動したり、

救命救急医療の現場にもいましたので、山岳看護師は、看護師としても、クライマーとしても、これまでの経験や知識をすべて生かせる職業だと思いました。

Q: 富士山五合目の山岳救護所でも活動していらっしゃいますよね？

A: はい。4 年前から、山梨県から委託を受け、富士山五合目にある山岳救護所で勤務しています。下山中に怪我をした方、体調が悪くなった方のほか、高山病になった方が運び込まれることもあります。

Q: 忘れられない出来事はありますか？

A: ２０１９年の勤務中に落石事故による死亡事故が発生しました。山での落石事故は決して珍しいものではありませんが、富士山の登山者の約半数は生まれて初めての登山の方々なので、石で命を落とすと思って登山をしている人は少ないです。事故は一瞬で起きてしまいます。大自然の前では人間は無力ですから、山の事故をゼロにすることはできませんが、事故の確率を少しでも下げることは可能です。そのためには安全に登山する啓もう活動をする事が最も重要だと思っています。

今年のお盆は停滞前線による集中豪雨で、富士山でもかなりの雨量となりました。その大雨により流入した土砂により、富士スバルラインが通行止めとなり、登山者１６０名が吉田口五合目に足止めされましたが、その際も小林さんが奔走してくださいました。益々のご活躍を祈念しています！

小林さんのことをもっと知りたい方は小林美智子山岳看護師事務所 http://yamanurse.com をご覧ください

Copy Rights Reserved 2021 ©一般社団法人富士の国やまなし通訳案内士会

【編集責任者 深澤富久子】